

I 急病のときの対応

15. ショックを起こしたとき

家庭での処置

1. 呼吸、脈拍、意識の有無の確認。
2. 直ちに救急車を要請(できれば状態を報告)。



意識が無い場合

- (1) あおむけに寝かせ、衣服をゆるめる。
- (2) 呼吸の確認(胸の動き・口元に耳を近づけて息の音を確認)。
- (3) 気道の確保(顎を持ち上げる・肩の下に枕など入れて持ち上げる)。



3. 呼吸がなければ心肺蘇生を開始。

意識がある場合

- (1) 衣服をゆるめ、一番楽な姿勢をとらせる(座位が楽)。
- (2) 落ち着いて声をかけはげます。
- (3) 背中をさすって呼吸しやすくする。
(背中を前方に押すように呼吸のタイミングに合わせてさする)。



その後の対応



緊急に病院受診、救急車要請

全ての例がレベル3。

- * ショックの既往がある人は、エピペンという注射を持っている場合があるので確認。また使い方を周囲の人は知っておくことが大切。

救急車が来るまでの処置

原因は様々です。他の病気にかかっている、それが悪い方に突然向かった時。食べ物や、薬によるとても速いアレルギー反応。事故による出血、虫さされ、高度の脱水。いずれにせよ発症、進行が速いので、全て受診の対象となります。

症状の起こった直前の状況を良く覚えておいてください。